

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	前期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史・井村 弘子	1 年	平山篤史 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①家族関係など集団の関係性、地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法を学ぶ。 ②グループアプローチによる集団への相談・助言・指導の実践を学ぶ	前半8回を平山、後半8回を井村が担当する。 公認心理師が勤務する臨床現場では、一対一の個別対応だけでなく、家族、グループ、組織、コミュニティなど集団を見立てて対応することも求められてくる。集団を見立てる理論的枠組みを学び、集団にどう対応する技術を身につけてほしい。
	到達目標	
	①家族関係をはじめとした集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論を理解する。 ②家族関係をはじめとした集団の関係性に焦点を当てた心理支援の技法を習得する。 ③地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論を理解する。 ④地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する方法を理解する。	

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目
-----------------------	-------------

※ポリシーとの関連性 臨床心理学的地域援助の実践力を高めるための講義である。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	教育分野に関する理論と支援の展開	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-山本 雅子	1 年	E-mail; ptt1260@okiu. ac. jpへ問い合わせ下さい。	

学びの準備	ねらい 児童・生徒、保護者、教職員等へ心理支援の方法を学ぶ。そして、コンサルテーションや多職種連携など学ぶ。また緊急支援の方法をも学ぶ。	メッセージ 教育領域、特に学校での心理支援の基礎を学ぶ。そして、児童・生徒、保護者、教職員等へ心理支援の実践を学ぶ講義です。ケースを取り上げどのような介入が考えられるのかもディスカッションする。
	到達目標 児童・生徒への対応、カウンセリングの基礎技法の理解をめざす。また多職種連携の方法を理解することをめざす。そして、コンサルテーションの方法を理解することをめざす。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、学校支援に係る法律など	法律と制度
	2	学校コミュニティでの心理支援に係る倫理	公認心理師としての倫理について
	3	学校システムの理解と対応	学校システムについて
	4	学校カウンセリングの基礎理論	理論とその応用
	5	学校カウンセリングの基礎理論	理論とその応用
	6	学校カウンセリングの実践・カウンセリングの対象者とその支援の方法	心理的支援について
	7	学校カウンセリングの実践・コンサルテーションの理論と実践	コンサルテーション
	8	学校カウンセリングの理論・心理教育的支援について	心理教育について
	9	多職種連携	多職種連携について
	10	多職種連携	協働について
	11	学校コミュニティにおける緊急支援	学校の危機
	12	学校コミュニティにおける緊急支援	緊急支援プログラム
	13	学校コミュニティにおける緊急支援	緊急支援プログラム
	14	学校カウンセリングの実際	心理支援の介入技法について
	15	学校カウンセリングの実際	多様性と学校について
	16		
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜資料を配付する。参考文献は初回講義時に紹介する。		
	学びの手立て 遅刻は原則認めない。ただ正当な理由がある場合のみ認めることもある。講義中、こちらから質問したり、ディスカッションを行うことがほとんどである。積極的に参加し自分の考えを表現して欲しい。（自己表現の訓練と相手への伝達の訓練にもなるので。）		
	評価 児童・生徒、保護者、教職員等へ心理支援の方法を学ぶ。そして、コンサルテーションや多職種連携など学ぶ。また緊急支援の方法をも学ぶ。これらを理解できたものは合格とし、できなかったものは不合格とする。レポート40%、講義中のディスカッションの参加率60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 心理的アセスメントに関する理論と実践、心理療法特論、心の健康教育に関する理論と実践、障害児（者）援助特論、人格心理学特論、認知心理学特論などの科目と関連が深い。心理支援の基礎をマスターしておくこと。そしてそれらをどう実践に応用するのかを自問自答すること。
-------	--

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心の健康教育に関する理論と実践	前期	水 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-滝 友秀	1 年	授業終了後、またはメールにて受け付けます。	

学びの準備	ねらい 心理の専門家として社会で活動する際に、対象は精神的な問題を抱えている方々とは限りません。問題を抱えている方への治療的な関わりだけでなく、問題を抱えていない方々への予防的な関わりも社会的なニーズとして増えてきています。そのよう社会的要請に心の専門家として応えていくためにも、心の健康について理解を深め、健康教育を実践できることが必要と考えます。	メッセージ 心理学の学びには、一つだけの正解はないものだと思います。常により良い答えや方法など模索し続けることが苦しくもあり、楽しい部分だと思っています。模索するためにも、まずは先人の知恵を理解するための学習が必要だと思っています。その知識をもとに、様々な状況でどのように考え・対処してゆくかを皆さんと一緒に模索出来たらと思っています。
	到達目標 ・心が健康であるとはどのような状態か”を理解し他者に説明できるようになる。 ・心の健康に寄与する諸理論（カウンセリング心理学・コミュニティ心理学など）の理解、心を健康を維持するために必要な知識や技法（ストレス対処技法など）を理解し、それらを他者に教育出来るような方略を考えることが出来る。 ・日々の生活を送る上でどのような時期にで不適応を呈しやすいかを理解し、それらを適応的に乗り越えられるための対処方法を考えるこ	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	今後の講義概要と流れの説明	復習、情報の収集
	2	第2～4週：心の健康教育とは（以下の内容を行う予定）	復習、情報の収集
	3	心の健康とは何か	復習、情報の収集
	4	心の健康教育を行う意義について	復習、情報の収集
	5	第5～8週：心の健康教育に関する理論の理解（以下の内容を行う予定）	復習、体験との照合
	6	カウンセリング心理学の理解	復習、体験との照合
	7	コミュニティ心理学の理解	復習、体験との照合
	8	学校心理学の理解	復習、体験との照合
	9	第9～13週：心の健康教育の内容（以下の内容を行う予定）	復習、講義内容の生活実践
	10	ストレスとストレスマネジメントの理解	復習、講義内容の生活実践
	11	ストレス対処方法の理解	復習、講義内容の生活実践
	12	ストレス関連障害について	復習、講義内容の生活実践
	13	発達課題やライフイベントについて	復習、体験との照合
	14	第14～15週：心の健康教育の実践について（以下の内容を行う予定）	文献検索、発表準備
	15	集団を扱うことについて	文献検索、発表準備
	16	試験日	講義内容の復習
学びの手立て	テキスト・参考文献・資料など 教科書の購入などは必要ありません。必要な書籍・文献などあれば、適宜お伝えします。		
	各人が考えたことや感じたことなどを積極的に言語化して頂けたらと思っています。それらの意見をもとにお互いの意見や考えを深めていけたら良いと考えています。 講義は心の健康教育に関してですが、様々な分野に関連している内容を学ぶことになると思います。それぞれの関連領域に関して、ご自身で文献などを調べて頂くと、より講義でお伝えした内容の理解が深まると思います。 欠席する際は事前にご連絡頂くようお願いします。		
	評価 講義への出席状況を平常点とします。（15%） 必要に応じてレポートなどを出して頂く予定です。（35%） レポートでは様々な文献を調べ、その上でどのように考えたか・理解したかをまとめて下さい。 講義の最後には、講義内容を踏まえた試験を行います。 試験は心の健康関する模擬授業を実践する、実技試験の形式にて行います（50%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目		
	（１）関連科目等について 関連科目：学校現場に関する講義、心理支援に関する講義 上位科目：精神医学・心身医学に関する講義、心理実践実習 （２）次のステージ 実際の臨床場面で、これらの知識を活かして経験を積んで頂けると幸いです		

※ポリシーとの関連性 公認心理師取得のための、必修の授業となります

〔一般講義〕

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	後期	水 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大兼 千津子	1 年	ptt510@okiu.ac.jp 又は授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	産業組織心理臨床に関する施策や法令、指針を学び、心理職に対する社会のニーズを理解する。産業組織心理臨床の支援内容や方法を理解し、心理職の組織への関り方について学ぶ。	産業組織心理臨床は、今後さらにニーズが高まる領域です。今後、皆さんには公認心理師又は臨床心理士として産業組織領域で活躍してほしいです。
	到達目標 本科目を履修することで、産業組織心理臨床に必要な理論と実践を学ぶことができる。さらに、産業・労働分野に関わる公認心理師又は臨床心理士に必要な理論と支援内容・方法、今日的課題とその方法を学習することができる。	

学びのヒント 授業計画	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	社会背景及び産業心理臨床に求められるもの	配布資料の熟読と復習
	2	労働関係法令・施策・指針	配布資料の熟読と復習
	3	背景となる理論・モデル	配布資料の熟読と復習
	4	支援現場と活動内容	配布資料の熟読と復習
	5	個人アセスメント（キャリア開発含む）	配布資料の熟読と復習
	6	ストレスチェック制度と心理職の役割	ストレスチェック
	7	産業保健スタッフとの連携・関係機関へのリファー	配布資料の熟読と復習
	8	組織へのアプローチ・コンサルテーション、予防アプローチ	心理教育
	9	従業員支援プログラム（EAP）	配布資料の熟読と復習
	10	障害者雇用・就労支援	配布資料の熟読と復習
	11	発達障がいのある労働者への支援	配布資料の熟読と復習
	12	ハラスメント、関係法令、対応	配布資料の熟読と復習
	13	自殺予防と危機介入	配布資料の熟読と復習
	14	遠隔相談について	配布資料の熟読と復習
	15	事例検討	配布資料の熟読と復習
	16	まとめ	
学びの 実践	テキスト・参考文献・資料など ※テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。 【参考文献】 金井篤子、松本真理子、森田美弥子（2016）産業心理臨床実践 ナカニシヤ出版 木村周（2010）キャリア・コンサルティング理論と実践 社団法人雇用問題研究会 新田泰生、足立智昭（2016）心理職の組織への関り方 誠信書房 平木典子、松本桂樹（2019）公認心理師 分野別テキスト5 産業・労働分野 理論と支援の展開 創元社		
	学びの手立て ①履修の心構え 配布資料を熟読し、授業の中で質問と意見を積極的に述べること。 ②学びを深めるために 講義学んだキーワードを再度調べて再学習すること。 学んだことをレポートにまとめ、発表すること。		
評価	レポートの提出（70%）、受講態度30%		

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 社会状況の変化と組織のニーズを把握して、今後も産業組織心理臨床を学んでほしい。
-----------------------	--

※ポリシーとの関連性 公認心理師養成の一環として、司法・犯罪分野の実践を学ぶ。

〔一般講義〕

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	集中		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-荒井 崇史	1 年	授業終了後に教室で受け付けるほか、連絡先等は初回の授業でお伝えします。	

学 び の 準 備	ねらい	メッセージ
	非行・犯罪のある者を多面的に理解するために必要な知識を学ぶとともに、非行・犯罪のある者への心理教育・臨床心理学的援助技法の習得を目指す。	我々はなぜ違法な行為を行うのでしょうか？そもそも、違法とはどのような意味を持つのでしょうか？この授業では、こうした犯罪や非行に関する基礎的な知識から、犯罪や非行のある者へのアセスメントや心理学的な介入について学びます。
	到達目標 本授業における到達目標を、以下の2点とする。 1. 犯罪や非行に関する基礎的知見を理解し、それを第三者が理解できるように説明できる。 2. 公認心理師の職務において必要な司法・犯罪領域の実践的知識を習得し、それを第三者が理解できるように説明できる。	

学 び の 実 践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを熟読しておく。
	2	犯罪とは何か？	犯罪とは何かを自分なりに考える。
	3	司法・犯罪分野の法律・制度	刑法とは何かを調べる。
	4	刑事司法制度Ⅰ概要	刑事司法制度とは何かを調べる。
	5	刑事司法制度Ⅱ成○の場合	刑事司法制度とは何かを調べる。
	6	刑事司法制度Ⅲ未成年の場合	刑事司法制度とは何かを調べる。
	7	犯罪・非行の生物学的原因論	犯罪の生物学的原因を調べる。
	8	犯罪・非行の心理学的原因論	犯罪の心理学的原因を調べる。
	9	犯罪・非行の社会学的原因論	犯罪の社会学的原因を調べる。
	10	警察・裁判所における事例の検討	これまでの授業内容の復習。
	11	矯正における事例の検討	これまでの授業内容の復習。
	12	更生保護における事例の検討	これまでの授業内容の復習。
	13	再犯予測とリスクアセスメント	再犯の定義，再犯率を調べる。
14	犯罪被害者支援と心理学	犯罪被害者の困難を調べる。	
15	期末試験	これまでの授業内容の復習。	
16	まとめ	これまでの授業内容の復習。	
テキスト・参考文献・資料など			
【教科書】 森丈弓 他 2021 司法・犯罪心理学 サイエンス社			
【参考書】 大淵憲一 2010 犯罪心理学―罪の原因をどこに求めるのか― 培風館 越智啓太（編）2005 犯罪心理学 朝倉書店 細江達郎 2012 図解犯罪心理学 ナツメ社			
その他，授業内で必要な書籍や文献を紹介します。			
学びの手立て			
・ 授業内容が難解であるため，積極的に授業に参加し，主体的に時間外学習を行ってください。 ・ 他の受講生の迷惑になる行為（私語，遅刻，途中退出等）は控えてください。 ・ 初回の授業で受講のルールを詳細に説明するので，必ず出席してください。 ・ 授業内での疑問点に関しては，リアクションペーパーに記載してください。次の授業で可能な限りフィードバックします。			
評価			
成績は，授業への参加態度（50%），期末試験（50%）で評価します。授業への参加態度は，授業での質問，授業内で行う課題や事例検討への取り組みの程度，リアクションペーパーの内容を総合的に判断します。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 医療，福祉，教育の各分野に関する理論と支援の展開の他，心理アセスメントに関する他の臨床心理学科目を合わせて学習すると，より理解が深められます。
-------	---

※ポリシーとの関連性					「臨床心理学的研究・調査を可能にするための科目群」として、本講義では社会心理学的な実証研究のアプローチを学ぶ。					[/一般講義]					
科目基本情報	科目名 社会心理学特論				期 別			曜日・時限			単 位				
					後期			金 5			2				
	担当者 -泊 真児				対象年次			授業に関する問い合わせ							
					1 年			初回講義時に連絡先を周知する。また、毎回の授業終了時に教室で受け付ける。							
学びの準備	ねらい				メッセージ										
	到達目標														
学びの実践	学びのヒント														
	授業計画														
	回	テーマ							時間外学習の内容						
	1	履修登録・オリエンテーション・授業契約：本講義の進め方の説明・諸注意等							配布資料の復習・次回テーマの予習						
	2	科学論文のクリティカル・リーディング：基礎編							配布資料の復習・次回テーマの予習						
	3	科学論文のクリティカル・リーディング：実践編1							配布資料の復習・次回テーマの予習						
	4	科学論文のクリティカル・リーディング：実践編2							配布資料の復習・次回テーマの予習						
	5	受講生による話題提供(1)：修士論文に関わる主要論文の批判的検討							レジュメ作成・コメント内容の検討						
	6	受講生による話題提供(2)：修士論文に関わる主要論文の批判的検討							レジュメ作成・コメント内容の検討						
	7	受講生による話題提供(3)：修士論文に関わる主要論文の批判的検討							レジュメ作成・コメント内容の検討						
	8	受講生による話題提供(4)：修士論文に関わる主要論文の批判的検討							レジュメ作成・コメント内容の検討						
	9	受講生による話題提供(5)：修士論文に関わる主要論文の批判的検討							レジュメ作成・コメント内容の検討						
	10	受講生による話題提供(6)：修士論文に関わる主要論文の批判的検討							レジュメ作成・コメント内容の検討						
	11	受講生による研究発表(1)：修士論文の研究構想の発表と議論							レジュメ作成・コメント内容の検討						
	12	受講生による研究発表(2)：修士論文の研究構想の発表と議論							レジュメ作成・コメント内容の検討						
	13	受講生による研究発表(3)：修士論文の研究構想の発表と議論							レジュメ作成・コメント内容の検討						
	14	修士論文ブレデザイン発表・検討会(1)							レジュメ作成・コメント内容の検討						
	15	修士論文ブレデザイン発表・検討会(2)							レジュメ作成・コメント内容の検討						
16	予備日														
テキスト・参考文献・資料など															
テキストは特に指定しません。参考文献は下記の通り。 1. 安藤清志・村田光二・沼崎誠 編 (2017). 社会心理学研究入門 [補訂新版] 東京大学出版会 3190円 2. 福島哲夫 編 (2016). 臨床現場で役立つ質的研究法 新曜社 2420円 3. 松井豊 (2022). 三訂版 心理学論文の書き方:卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社 2145円 4. 大山正 監修・岡 隆 編著 (2012). 心理学研究法5 社会 誠信書房 4180円															
学びの手立て															
講義形態は、対面授業を予定していますが、新型コロナウイルス感染症の動向次第で、大学当局の判断に沿った形で行います。対面・遠隔いずれの講義形態になっても対応できる環境(特に、PCや通信環境)を整えておいて下さい。 実習や学外ボランティア等、やむを得ない事情で遅刻や欠席をする際は、原則として事前に担当教員に連絡を入れて下さい。難しい場合は、事後速やかに連絡して下さい。 講義では、質問やコメント等、積極的かつ能動的な関与を求め、これを授業参加度として評価します。講師や他の受講生の話をうのみにせず、まずは自分の頭でクリティカルに考え、自分なりの視点で積極的に意見を表明し、対話・議論に関与することを心がけて下さい。															
評価															
下記の1と2をもとに、総合的に評価します。 1. 授業参加度50%：講義における発言、質疑応答や対話・討論への積極的な参加など 2. 課題遂行度50%：レジュメ作成やプレゼンテーション、課題への取り組み状況など															
学びの継続	次のステージ・関連科目 ・心理統計法特論と合わせて履修すれば、研究法とデータ解析法の関連性についてより理解が深まるでしょう。 ・次のステージとして、臨床心理学特殊研究での修士論文作成に活かすようにして下さい。														

科目基本情報	科目名 社会福祉研究法特論Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	金 6	2
	担当者 桃原 一彦・知名 孝・比嘉 昌哉	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年	toubaru@okiu.ac.jp（桃原）akashic@okiu.ac.jp（知名）mahiga@okiu.ac.jp（比嘉）	

学びの準備	ねらい 調査法を含む研究法の検討を行うとともに、社会福祉の原理を理論と実践から両面を検討する。	メッセージ 「ともに学ぶ」ことへの主体的な参加を望む。
	到達目標 調査法を含む研究法の原理的な枠組みについて説明ができる。 社会福祉の原理について理論と実践の両面から多面的な検討と自説の展開ができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	科学的な研究法の基本（桃原）	テーマに合わせた研究法の探索
	2	社会調査の企画および設計の基本（桃原）	テーマによるデータ収集法の探索
	3	量的調査① 概念構成、変数構築、仮説提示（桃原）	キー概念から仮説提示までの作業
	4	量的調査② 調査票の作成方法・ワーディング等の基本ルール（桃原）	調査票作成の実践
	5	質的調査① 質的調査の特性、コーディング（桃原）	質的調査の特性について調べる
	6	質的調査② 質的データの脱文脈化、再文脈化（桃原）	質的データ分析の基本を実践する
	7	質的調査③ 質的データ解析ソフトを使った分析実践	Kh-coderを使った実践
	8	論文を読んでまなぶ①（質的調査論文の論文構成）山根論文（知名）	事前配布の山根論文を読んでおく
	9	論文を読んでまなぶ②（質的調査論文の論文構成）中田論文（知名）	事前配布の中田論文を読んでおく
	10	論文を読んでまなぶ③（質的調査論文の論文構成）熊倉論文（知名）	事前配布の熊倉論文を読んでおく
	11	論文を読んでまなぶ④（質的調査論文の論文構成）TEA論文（知名）	事前配布のTEA論文を読んでおく
	12	質的データのデータ処理について学ぶ①ーサンプルデータでの演習（知名）	データを事前に考察しておく
	13	質的データのデータ処理について学ぶ②ーサンプルデータでの演習（知名）	データを事前に考察しておく
	14	質的データのデータ処理について学ぶ③ーサンプルデータから読み取れること（知名）	データを事前に考察しておく
	15	質的研究方法論；M-GTAを中心に①研究倫理とインタビュー方法等	下記の指定参考文献を読み込むこと
	16	質的研究方法論；M-GTAを中心に②方法論とその分析方法等	下記の指定参考文献を読み込むこと
学びの手立て	テキスト・参考文献・資料など 桃原 『新・社会調査へのアプローチ』、『質的データ分析法』 知名 『TEA理論編 TEA実践編』 比嘉 『質的研究法マッピング』（2019年、サトウタツヤ他編、『定本 M-GTA 実践の理論化をめざす質的研究方法論』（2022年、木下康仁） *知名、比嘉の教科書は事前購入する必要なし。		
	学びの手立て この科目における原理的な考察を自身の研究課題とすりあわせて検討する。		
評価	評価 ①授業中の発表／報告・議論／質疑／コメントを内容と形式(積極性も含む)から評価60%、②時間外に作成したレジュメ・レポート等（特定質問、コメント、レジュメの修正版も含む）など提出物を形式と内容から評価40% *科目担当者2名がそれぞれ評価し、総合的に評価とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会福祉研究法特論Ⅱ、人間福祉特殊研究Ⅰ
-------	--

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	社会福祉研究法特論Ⅱ	集中		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-山野 則子	1 年	比嘉研究室にメール(mahiga@okiu.ac.jp)等で連絡してください。	

学びの準備	ねらい 社会福祉課題、特に子どもの貧困、虐待などの課題を改善するために社会福祉はどのように向き合っていくのか、ミクロレベルだけではなく、展開すべきマクロレベルからも実践そして研究方法を学ぶ。エビデンスに基づく実践を生み出す研究手法をベースに検討する。	メッセージ 第3回から時間外学習欄にある論文を読んでポイントのみならず、批判点を指摘してまとめること。S W研究46-2寺本論文、S W研究46-3山野論文、教育システム情報学会誌38-1、社会福祉学54-4、厨子論文の5本を受講者で分担すること。 ① ～ ④ は以下の文献に書いた本である。参考までに目を通しておいってください。ほか必要な資料は配布します。
	到達目標 ・社会福祉実践理論について、その理論構造を把握し、そもそも研究とは何か、その認識論をとらえられる。 ・岡村理論、システム理論などの諸理論とアプローチについて、その固有の視点や実践パラダイム等の理解を深める（例えば、学校ソーシャルワークという形で児童分野におけるソーシャルワークの展開を題材に、理論と照らして実践のありようを深める）。 ・ミクロだけでなく、マクロ実践を視野に入れた研究と実践の理解を深める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	データから見る子どもの実態とソーシャルワーク	③ , S W研究32-2, 47-4
	2	社会福祉実践理論とパラダイム	① 、研究について
	3	依って立つ理論：岡村理論やシステム理論	① 、研究について
	4	システム理論	S W研究46-2寺本論文
	5	よい論文とは	S W研究46-2寺本論文
	6	ミクロ実践とその論文①	S W研究46-2寺本論文
	7	ミクロ実践とその論文②	S W研究46-2寺本論文
	8	メゾ実践①	S W研究46-3山野論文
学びの実践	9	メゾ実践②	教育システム情報学会誌38-1
	10	分析方法 1	前半講義の復習
	11	マクロ実践とその論文①	②④ 、社会福祉学 54（4）
	12	マクロ実践とその論文②	②④ 、社会福祉学 54（4）
	13	分析方法 2	学校S W研究（7）厨子論文
	14	分析方法 3	学校S W研究（7）厨子論文
	15	まとめと自身の研究	後半講義の復習
	16	学生の発表または、課題の提出	前講義の総復習
	テキスト・参考文献・資料など ①山野則子（2014）「スクールソーシャルワーク - 教育と福祉の接点」岩崎晋也、岩間信之、原田正樹『社会福祉研究のフロンティア』、有斐閣、172-175. ②山野則子（2018）『学校プラットフォーム』有斐閣、 ③山野則子（2019）『子どもの貧困調査』明石書店、 ④山野則子編著『エビデンスに基づく効果的なスクールソーシャルワーク』明石書店。		
	学びの手立て ①履修の心構え：本講義のコーディネートは比嘉が行います。事前質問等は比嘉までお願いします。本講義は集中講義形式のため、仕事との両立の工夫をしましょう。 ②学びを深めるために：講師の山野先生のご著書や論文を事前に読み、講義に臨みましょう。		
	評価	授業の参加姿勢、発表資料等で評価します。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・修士論文その他研究及び実践活動につなげる。 ・他の選択科目の学びに活かしていく。
-------	--

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	社会福祉実践演習Ⅰ	前期	水 7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	1 年	メール：m.higuchi @okiu.ac.jp 樋口研究室：5号館4階5419研究室	

学びの準備	ねらい 自らが在職する現場におけるソーシャルワーク実践をマイクロ・メゾ・マクロの視点で探求し、研究的に取り組む力を養う。	メッセージ ソーシャルワークは、実践科学といわれます。現場の実践者が研究活動を行うには、まだまだ厳しい環境ですが、実践における気づきを研究活動に発展させていきましょう。
	到達目標 実践現場における福祉的課題について、他の専門職と協働し解決することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：ゼミの概要説明、自己紹介	ポートフォリオを作成する
	2	実践のなかにおける課題について	事例研究会の企画書を作成する
	3	「疑問（問い）」を解決する方法について	事例研究会の案内文書を作成する
	4	現場実践者が研究することについて～研究と実践の役割分担・共同・統合～	第1回事例研究会の準備
	5	実践報告と実践研究について	第1回事例研究会の準備
	6	ソーシャルワークにおける研究活動とは	第1回事例研究会参加
	7	実践における気づきから研究活動に発展させるポイントについて	第2回事例研究会の準備
	8	研究活動の成果と発表について	第2回事例研究会の準備
	9	研究ができる環境づくりについて	第2回事例研究会参加
	10	スーパービジョン体制について	第3回事例研究会の準備
	11	研究倫理について	第3回事例研究会の準備
	12	事例検討と事例研究について①	第3回事例研究会参加
	13	事例検討と事例研究について②	第4回事例研究会の準備
	14	事例検討と事例研究について③	第4回事例研究会の準備
	15	事例検討と事例研究について④	第4回事例研究会参加
	16	まとめと振り返り	ポートフォリオを作成する
	テキスト・参考文献・資料など ○参考文献： ・『ソーシャルワーク事例研究の理論と実際』、野口定久編集代表、中央法規、2014年 ・『ソーシャルワーカーのための研究ガイドブック 実践と研究を結びつけるプロセスと方法』、日本ソーシャルワーク学会監修、中央法規、2019年 ・『相談援助職のための事例研究入門』、福富昌城・白木裕子編著、中央法規、2020年		
	学びの手立て ・様々な分野の実践家と積極的に交流し、多面的・総合的・批判的な思考力を身に付けましょう。 ・関連する専門職団体のセミナーや学会等に積極的に参加し、多くの実践研究に触れましょう。		
	評価 ・実践報告60%、課題提出20%、スーパービジョン20%として、総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「社会福祉実践演習Ⅱ」や「人間福祉特殊研究」につなげ、学びを深めてほしい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	社会福祉実践演習Ⅱ	後期	水 7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	専任教員	2 年		
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	到達目標			
学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）			
	テキスト・参考文献・資料など			
	学びの手立て			
	評価			
	次のステージ・関連科目			

科目基本情報	科目名 障害と支援・ケア特論Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	水 6	2
	担当者 小柳 正弘	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この科目は、障害学、哲学、社会学、自己決定論などの観点参考に、〈「障害」と「支援」もしくは「ケア」との関わり〉について、多面的な検討を行うものである。	メッセージ 「ともに学ぶ」ことへの主体的な参加を望む。
	到達目標 自身に固有の問題意識にもとづき、〈「障害」と「支援」もしくは「ケア」との関わり〉について、関連する諸問題や先行研究に関する多面的な検討をふまえたうえで、自説の展開ができる。なお、多面的な検討にあたっては、障害学、哲学、社会学などの観点も参照することが望まれる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 各回のテーマ [] 内は時間外学習の内容 ①批判的コメントの手法―石橋論文を素材に〔レジュメの作成〕 ②受講者の課題と「障害」の関わり〔自身の課題と「障害」との関わりを整理〕 ③ケアとアート＝ヘルマンハープ論〔ケアとアートとの関わりについて検討〕 ④哲学の手法（1）鷲田清一の場合〔レジュメの作成〕 ⑤障害の社会モデルをめぐって（1）〔レジュメの作成〕 ⑥障害の社会モデルをめぐって（2）〔レジュメの作成〕 ⑦哲学の手法（2）土屋賢二の場合〔レジュメの作成〕 ⑧障害の社会モデルをめぐって（3）〔レジュメの作成〕 ⑨立岩自閉症論〔レジュメの作成〕 ⑩下村ハンセン病論〔レジュメの作成〕 ⑪受講者の課題と「ケア」「支援」との関わり（1）〔自身の課題と「支援」「ケア」との関わりを整理〕 ⑫受講者の課題と「ケア」「支援」との関わり（2）〔自身の課題と「支援」「ケア」との関わりを整理〕 ⑬障害とケア・支援（1）＝自己決定論の観点から〔レジュメの作成〕 ⑭障害とケア・支援（2）＝パターナリズム論（『実践・倫理学』5章）の観点から〔レジュメの作成〕 ⑮障害とケア・支援（3）まとめの議論〔レジュメの作成〕
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：小柳正弘「障害の社会モデルとケア―社会的自我論の観点から」先端倫理研究第15号 参考文献：小柳正弘『自己決定の倫理と「私-たち」の自由』ナカニシヤ出版 児玉聡『実践・倫理学』勁草書房 ＊ このほかに、資料を配付し、授業の展開や受講者の問題関心に応じて適宜指示・紹介する。
	学びの手立て 大学院での学びは、主体性と独自性をもって自立した研究活動ができる見識・技法・能力を身につけることを目指すものであり、そのためには、たとえば以下のような姿勢が肝要である。 ①理論的課題であれ実践的課題であれ、まずは課題の学術的・社会的な背景を踏まえて問題を整理するなど、解決のためにどのような検討を行わなければならないかを、自身でしっかり考える。 ②他者との対話を通して、さまざまな問題を可能な限り多面的に(ときに根底的に)検討する。
	評価 ①授業中の発表／報告・議論／質疑／コメントを内容と形式(積極性も含む)から評価60%、②時間外に作成したレジュメ・レポート等(特定質問、コメント、レジュメの修正版も含む)など提出物を形式と内容から評価40% ＊遅刻・早退は原則として二回で欠席一回と見なす。

学びの継続	次のステージ・関連科目 人間福祉特論、障害と支援・ケア特論Ⅱ、人間福祉特殊研究Ⅰ
-------	--

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	障害と支援・ケア特論Ⅱ	後期	水 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小柳 正弘	1 年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この科目は、く「障害」と「支援」もしくは「ケア」との関わり）について、受講者の「現場」との関わりも参照しつつ、多面的な検討を行うものである。	メッセージ 「ともに学ぶ」ことへの主体的な参加を望む。
	到達目標 自身の「現場」におけるく「障害」と「支援」もしくは「ケア」との関わり）について、関連する諸問題や先行研究に関する多面的な検討をふまえたうえで、自説の展開ができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 各回のテーマ [] 内は時間外学習の内容 ①ケア・支援の理念と現実；受講者の現場との関わりで (1) [自身の現場との関わりを整理] ②ケア・支援の理念と現実；受講者の現場との関わりで (2) [自身の現場との関わりを整理] ③現場の理念と現実；障害児支援の現場をめぐって (1) [レジュメの作成] ④現場の理念と現実；障害児支援の現場をめぐって (2) [レジュメの作成] ⑤現場の理念と現実；障害児支援の現場をめぐって (3) [レジュメの作成] ⑥ケア・支援の理念と現実をつなぐもの＝ケアのスキル／アートとは；受講者の現場との関わり (1) [自身の現場との関わりを整理] ⑦ケア・支援の理念と現実をつなぐもの＝ケアのスキル／アートとは；受講者の現場との関わり (2) [自身の現場との関わりを整理] ⑧専門職の自己決定モデル；医療従事者の場合 [レジュメの作成] ⑨専門職の自己決定モデル；エンジニアの場合 [レジュメの作成] ⑩専門職の自己決定モデル；ステイクホルダー論の観点から [レジュメの作成] ⑪支援・ケアの土台となるもの；私-たちの自由／公衆・公共性 (1) [レジュメの作成] ⑫支援・ケアの土台となるもの；私-たちの自由／公衆・公共性 (2) [レジュメの作成] ⑬支援とケアの関係；現場のイメージ [自身のイメージを整理] ⑭「障害」の支援／ケアはどのようなものではあってはならないか (1) [自身の考えを整理] ⑮「障害」の支援／ケアはどのようなものではあってはならないか (2) [自身の考えを整理]	
	テキスト・参考文献・資料など 小柳正弘・山田富秋「「支援」における「現場の理念」の探索・構築にむけてー障害児支援の現場における質的調査の一例を素材に」『沖縄国際大学総合学術研究紀要』20-2 小柳正弘『自己決定の倫理と「私-たち」の自由』ナカニシヤ出版 小柳正弘「企業の社会的責任論におけるステイクホルダー論の展開に関する一考察ービジネス倫理学の観点から」『沖縄国際大学産業総合研究調査報告書』19 ＊このほかに資料を配付するほか、授業の展開や受講者の問題関心に応じて参考文献を適宜指示・紹介する。	
	学びの手立て 大学院での学びは、主体性と独自性をもって自立した研究活動ができる見識・技法・能力を身につけることを目指すものであり、そのためには、たとえば以下のような姿勢が肝要である。 ①理論的課題であれ実践的課題であれ、まずは課題の学術的・社会的な背景を踏まえて問題を整理するなど、解決のためにどのような検討を行わなければならないかを、自身でしっかり考える。 ②他者との対話を通して、さまざまな問題を可能な限り多面的に(ときに根底的に)検討する。	
	評価 ①授業中の発表／報告・議論／質疑／コメントを内容と形式(積極性も含む)から評価60%、②時間外に作成したレジュメ・レポート等(特定質問、コメント、レジュメの修正版も含む) など提出物を形式と内容から評価40% ＊遅刻・早退は原則として二回で欠席一回と見なす。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 人間福祉特論、障害と支援・ケア特論Ⅰ、人間福祉特殊研究Ⅱ
-------	--

※ポリシーとの関連性

個人や社会の福祉・心理的問題に関する適切な研究活動ができるよう、心理学的研究・調査を行うための技術を身に付ける。

[

／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理学研究法特論	後期	木 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	1 年	研究室5-534 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理学的研究を行うにあたって、どのような研究手法があるのかを知り、研究テーマの設定方法、研究計画の立て方、データの収集方法・分析方法について学ぶことで、修士論文作成に必要な技術を身に付ける。	メッセージ 修士論文作成のために必要な技術を身に付けていきましょう。そのために、自分の発表担当回は入念に準備を行いましょう。
	到達目標 ①心理学的研究のデータの収集方法・分析方法を学ぶ ②心理学的研究の批判的視点を身に付け、自身の研究に生かす ③修士論文の研究テーマの設定および研究計画の立て方を身に付ける	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	χ^2 乗検定と比率の検定	論文精読・発表準備
	3	t検定と一要因分散分析	論文精読・発表準備
	4	二要因分散分析	論文精読・発表準備
	5	共分散分析	論文精読・発表準備
	6	重回帰分析	論文精読・発表準備
	7	共分散構造分析	論文精読・発表準備
学びの実践	8	媒介分析	論文精読・発表準備
	9	因子分析	論文精読・発表準備
	10	クラスター分析	論文精読・発表準備
	11	質的研究	論文精読・発表準備
	12	心理学的研究法の理解と実践①	修論研究発表準備
	13	心理学的研究法の理解と実践②	修論研究発表準備
	14	心理学的研究法の理解と実践③	修論研究発表準備
	15	心理学的研究法の理解と実践④	修論研究発表準備
	16	予備日	
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて、適宜講義の中で紹介する。		
学びの実践	学びの手立て 修士論文の計画を具体的に進めていきましょう。また他者の研究にも関心を持ち、積極的にコメントをして、自分の研究の参考になるものは取り入れていきましょう。		
	評価 毎回の講義における積極性（質問・コメント）・・・40％ 発表内容・・・60％		

学びの継続	次のステージ・関連科目 臨床心理学特殊研究Ⅰ、臨床心理学特殊研究Ⅱ
-------	--------------------------------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理実践実習Ⅰ	通年	水 7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山篤史、上田幸彦、宮里新之介、宮良尚子	1 年	平山：研究室13-211 atsushi@okiu.ac.jp 井村：研究室 5-424-2 h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 臨床現場で実習をする上で必要な倫理、態度、基本的知識・技能を学習し、実習の準備を行う。心の専門家が働いている4分野（保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野）について実習・見学実習を行う。また、これらの実習体験を振り返り、心理的支援の専門家を目指す上で、今後の演習・実習で必要となる自らの課題や活かせる資質を確認する。	メッセージ 生の臨床現場を体験する実習である。そのため、必要な準備（基礎的な知識・倫理）をしっかりと行うことが必要となる。
	到達目標 心理的支援の専門家として必要な①コミュニケーション能力②心理査定技能③心理面接技能④地域支援技能の基礎を習得する。 心理支援が必要とされる対象者のニーズの把握と心理学的理解、それに応じた支援方針の計画の考え方を習得する。 実習施設における多職種とのチームアプローチの基礎を習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料をよく読む
	2	社会人として働くこと、組織人として働くこと	ディスカッションの振り返り
	3	保健医療分野に関する法的根拠	調べ学習と復習
	4	保健医療分野（精神科病院）の役割と機能	調べ学習と復習
	5	保健医療分野（精神科病院）における支援の対象者と心理的支援（統合失調症）	調べ学習と復習
	6	保健医療分野（精神科病院）における支援の対象者と心理的支援（アルコール依存症）	調べ学習と復習
	7	保健医療分野（精神科病院）における支援の対象者と心理的支援（認知症）	調べ学習と復習
	8	保健医療分野（精神科病院）における支援の対象者と心理的支援（ダイケア・作業療法）	調べ学習と復習
	9	保健医療分野における多職種の役割と連携	調べ学習と復習
	10	保健医療分野（精神科病院）におけるアセスメント技法	調べ学習と復習
	11	実習生として臨床現場に入るということと基本的ルール	ディスカッションの振り返り
	12	心理的支援従事者に求められる倫理	ディスカッションの振り返り
	13	実習目的の具体化・明確化①前半グループ	発表準備・振り返り
	14	実習目的の具体化・明確化②後半グループ	発表準備・振り返り
	15	実習記録のまとめ方	配布資料を読む
	16	精神科病院実習報告と振り返り①前半グループ	発表準備・振り返り
	17	精神科病院実習報告と振り返り②後半グループ	発表準備・振り返り
	18	教育分野の法的根拠	調べ学習と復習
	19	教育分野（教育委員会教育相談課）の役割と機能	調べ学習と復習
	20	教育分野（教育委員会教育相談課）における支援の対象者と心理的支援	調べ学習と復習
	21	教育委員会教育相談課見学実習の振り返り	ディスカッションの振り返り
	22	福祉分野の法的根拠	調べ学習と復習
	23	福祉分野（児童相談所）の役割と機能	調べ学習と復習
	24	福祉分野における支援の対象者と心理的支援	調べ学習と復習
	25	児童相談所見学実習の振り返り	ディスカッションの振り返り
	26	司法・犯罪分野の法的根拠	調べ学習と復習
	27	司法・犯罪分野（少年鑑別所）の役割と機能	調べ学習と復習
	28	司法・犯罪分野（少年鑑別所）における支援の対象者と心理的支援	調べ学習と復習
	29	少年鑑別所見学実習の振り返り	ディスカッションの振り返り
	30	まとめ	ディスカッションの振り返り
	31		

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 参考文献 病院で働く心理職―現場から伝えたいこと 野村れいか（編著）日本評論社 臨床心理士を目指す大学院生のための精神科実習ガイド 津川律子・橘玲子（編著）誠信書房 こころの専門家が会える法律 佐藤進（監）津川律子・元永拓郎（編）誠信書房
	学びの手立て 実習は参加するだけでは何も身にならない。事前に関連知識を得て、問題意識・目的意識を明確化して臨むことで多くの学びを得ることができる。また、同じ体験をしても、実習生によって感じることや考えることは異なる。実習後はディスカッションを行い、意見交換し、実習体験をより深化させる。
	評価 準備（事前課題・発表）…30点 実習態度・実習への取り組み…30点 実習後のディスカッション…30点 実習の振り返りレポート…10点
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 心理実践実習Ⅱ、心理実践実習Ⅲ、心理実践実習Ⅳ その他の専門科目

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理実践実習Ⅲ	通年	水 7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山篤史、上田幸彦、宮里新之介、宮良尚子	1 年	平山：研究室13-211 atsushi@okiu.ac.jp 上田：研究室13-213 y.ueda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 大学院付属の施設、心理相談室のケースを担当するための基本的な知識や枠組みを学び、心理相談室業務の実習を通して体験的に学ぶ。実習Ⅲでは、特にで電話受付と、臨床心理士有資格者の面接陪席が中心となる。また、心理相談室業務の運営についても実践を通して学ぶ。	メッセージ 心理相談室のスタッフとして、業務とクライアントに関わることで心理臨床の基礎を学べます。有資格者の面接を陪席できる機会は、社会にでるとなかなか体験することができません。陪席者という立場で俯瞰的に面接を観察する一方で、自分が面接担当者であるかのような「思い入れ」も持ちながら望んでほしいです。
	到達目標 ①心理相談室業務の基本的枠組みが理解できる②心理相談室業務の流れが理解できる③電話受付業務ができる④面接への陪席を通して、クライアント理解、および、セラピストとクライアントの相互作用が理解できる⑤インテーク報告書をまとめることができる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料を読む
	2	心理相談室の組織と機能	配布資料の復習
	3	心理相談室の面接構造	配布資料の復習
	4	心理相談室の備品と使い方	配布資料の復習
	5	心理相談室の相談業務の流れ	配布資料の復習
	6	電話受付の概要と留意点	配布資料の復習
	7	電話受付ロールプレイングと受付シートの作成 1	ロールプレイング体験振り返り
	8	電話受付ロールプレイングと受付シートの作成 2	ロールプレイング体験振り返り
	9	ケースに関する各書式の必要事項と留意点	配布資料の復習
	10	ケース記録の記入に関する留意点	配布資料の復習
	11	陪席実習の目的・意義	配布資料の復習
	12	陪席実習の心構えと留意点	ディスカッションの振り返り
	13	陪席記録の取り方	配布資料の復習
	14	陪席実習振り返り1	陪席記録のまとめ・発表準備
	15	陪席実習振り返り2	陪席記録のまとめ・発表準備
	16	陪席実習振り返り3	陪席記録のまとめ・発表準備
	17	ケースカンファレンス運営の方法と留意点	配布資料の復習
	18	陪席実習振り返り4	陪席記録のまとめ・発表準備
	19	陪席実習振り返り5	陪席記録のまとめ・発表準備
	20	陪席実習振り返り6	陪席記録のまとめ・発表準備
	21	インテーク報告書の各項目と書き方	インテーク報告のまとめ・発表準備
	22	インテーク報告書のまとめ方（基本事項・ジェノグラム・主訴）	インテーク報告のまとめ・発表準備
	23	インテーク報告書のまとめ方（成育歴・現症歴・問題歴）	インテーク報告のまとめ・発表準備
	24	インテーク報告書のまとめ方（見立てと方針）	インテーク報告のまとめ・発表準備
	25	インテーク報告書のまとめ方についての集団スーパーヴィジョン	インテーク報告のまとめ・発表準備
	26	陪席実習振り返り7	陪席記録のまとめ・発表準備
	27	陪席実習振り返り8	陪席記録のまとめ・発表準備
	28	陪席実習振り返り9	陪席記録のまとめ・発表準備
	29	ケースの引き継ぎについての留意点1	見立て・方針のまとめ
	30	ケースの引き継ぎについての留意点2	見立て・方針のまとめ
	31		

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 参考図書 心理臨床家の手引き 鏑幹八郎・名島潤慈（編著） 誠信書房 臨床面接の進め方―初心者のための13章― M・ハーゼン、V・B・ヴァンハッセル（編）深澤道子（監訳）日本評論社 カウンセリングプロセスハンドブック 福島脩美・田上不二夫・沢崎達夫・諸富祥彦（編）金子書房
	学びの手立て 個々のケースへの対応は、机上の勉強だけでは学べないことが多くあります。基本的な枠組みはしっかり押さえつつ、個々のケースに応じてどう対応できるのかその都度その都度考えることが重要です。判断のつきにくいことも多いかと思いますが、教員、嘱託カウンセラーの先生、先輩に積極的に質問し、経験を通して学びましょう。
	評価 実習態度・実習への取り組み…40点 実習後の振り返りのディスカッション…30点 毎回の課題・実習の振り返りレポート…30点
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 心理実践実習Ⅱ、心理実践実習Ⅳ、臨床心理実習A/B その他の専門科目

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理実践実習Ⅳ	通年	水 7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山篤史、上田幸彦、宮里新之介、宮良尚子	2 年	上田まで y.ueda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 来談者のニーズに応じた適切なアセスメント、心理支援を提供できるようにする。	メッセージ 【実務経験】臨床心理としての経験を持つ担当者が、実際の心理臨床と同じ心理支援が提供できるように指導します。実際の面接は非常に負担が強いものであるのでスーパervァイズを受けながら自身のメンタルヘルスにも気をつけながら実習を続けること。
	到達目標 来談者の様々なニーズに合わせた適切な心理支援ができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	担当事例①アセスメント	面接記録作成
	3	担当事例①介入・スーパービジョン	面接記録作成
	4	担当事例①介入・スーパービジョン	面接記録作成
	5	担当事例①介入・スーパービジョン	面接記録作成
	6	担当事例①介入・スーパービジョン	面接記録作成
	7	担当事例①介入・スーパービジョン	面接記録作成
	8	担当事例②アセスメント	面接記録作成
	9	担当事例②介入・スーパービジョン	面接記録作成
	10	担当事例②介入・スーパービジョン	面接記録作成
	11	担当事例②介入・スーパービジョン	面接記録作成
	12	担当事例②介入・スーパービジョン	面接記録作成
	13	担当事例②介入・スーパービジョン	面接記録作成
	14	担当事例③アセスメント	面接記録作成
	15	担当事例③介入・スーパービジョン	面接記録作成
	16	担当事例③介入・スーパービジョン	面接記録作成
	17	担当事例③介入・スーパービジョン	面接記録作成
	18	担当事例③介入・スーパービジョン	面接記録作成
	19	担当事例③介入・スーパービジョン	面接記録作成
	20	担当事例④アセスメント	面接記録作成
	21	担当事例④介入・スーパービジョン	面接記録作成
	22	担当事例④介入・スーパービジョン	面接記録作成
	23	担当事例④介入・スーパービジョン	面接記録作成
	24	担当事例④介入・スーパービジョン	面接記録作成
	25	担当事例④介入・スーパービジョン	面接記録作成
	26	担当事例⑤アセスメント	面接記録作成
	27	担当事例⑤介入・スーパービジョン	面接記録作成
	28	担当事例⑤介入・スーパービジョン	面接記録作成
	29	担当事例⑤介入・スーパービジョン	面接記録作成
	30	担当事例⑤介入・スーパービジョン	面接記録作成
	31		

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。
	学びの手立て 来談者の話を共感的に聞きつつ、来談者の抱える苦悩の構造はどうなっているか、介入の糸口は何かを同時に考える。この姿勢を常に保って面接に臨むことが大切である。来談者の問題を自分一人で抱え込むことなく、スーパーヴァイザーを活用しながら取り組むこと。
	評価 各面接への取り組み・・・50%、面接記録・・・20%、面接継続の状況・・・30%によって評価する。、
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 臨床心理実習B、臨床心理面接特論

科目基本情報	科目名 地域共生社会特論Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	木 7	2
	担当者 岩田 直子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年	講義の後、もしくはメールにて受付けます。	

学びの準備	ねらい 地域共生社会（マジョリティを解体する社会）の構築に向けて地域共生の歴史、理論、政策、アプローチ等について多角的に学ぶ。特に、障害学の視点から検討を深めたい。	メッセージ 障害学の視点から地域共生社会について研究し、これからどのような社会を構築していくべきか大いに議論しましょう。そして、修士論文作成や研究会での発表につなげていきましょう
	到達目標 障害学研究の動向を理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回：オリエンテーション 第2回～第6回：論文をもとにディスカッション 第7回：ゲストスピーカーを招へいし、実践を学ぶ 第8回～第14回：個別研究発表 第15回～第16回：まとめ	
	テキスト・参考文献・資料など 講義時に随時紹介する。	
	学びの手立て 個別発表に向けて 関心を持った地域課題について文献を調べたり実際に訪問したりしましょう。	
	評価 レポート50%、ゼミ発表50%	

学びの継続	次のステージ・関連科目 修士論文作成や研究会の発表につなげてほしい。
-------	---------------------------------------

※ポリシーとの関連性

臨床心理学領域大学院生のみが履修できる。
臨床心理の実践力を身につけるための専門科目である。

[

／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	投映法特論	後期	月 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲田 梨沙	1 年	稲田梨沙 <ptt861@okiu.ac.jp>	

学びの準備	ねらい 心理検査の中でも投映法検査について取り上げる。ロールシャッハ・テストをはじめ投映法の適切な実施方法、結果の整理、解釈の基本的な考え方について体験的に学習していく。その上で、検査報告書の書き方、テストバッテリーの組み方、心理的援助に結びつく総合所見の書き方などへの知識を習得する。	メッセージ 演習の一環として必ず被験者体験をし、データを手元に用意すること。投映法検査について、各検査の成り立ち、目的、構成、手順、測定方法などについて各自整理しておくこと。
	到達目標 投映法検査を臨床場面で実際に活用するには、さらなる研修が必要であるが、その基礎を学ぶ機会になればと考える。この科目を履修することによって投映法検査の実施と結果整理ができるようになる。その分析や解釈方法については事例を通して理解を深め、解釈や所見の書き方については今後（臨床査定演習Ⅱ）習得できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・投映法検査概論	臨床心理学の査定について調べる
	2	臨床心理学における心理査定について	投映法検査の種類について調べる
	3	被験者体験（ロールシャッハテスト）	被験者体験を振り返る
	4	被験者体験（その他の投映法検査）	被験者体験を振り返る
	5	投映法被験者体験の振り返り・臨床心理学における投映法について	配布資料の熟読
	6	投映法検査の結果整理方法と解釈について	配布資料の熟読
	7	ロールシャッハ・テスト歴史と実施方法	配布資料の熟読
	8	ロールシャッハ・テスト結果整理の方法①	配布資料の熟読
	9	ロールシャッハ・テスト結果整理の方法②	配布資料への記入
	10	ロールシャッハ・テストスコアリング方法①	配布資料への記入
	11	ロールシャッハ・テストスコアリング方法②	配布資料への記入
	12	ロールシャッハ・テスト結果のまとめ方①	配布資料への記入
	13	ロールシャッハ・テスト結果のまとめ方②	配布資料への記入
	14	事例検討 ケースA	事例について整理する
	15	投映法のまとめ	投映法について整理する
	16	最終レポート作成・提出（到達度の確認）	最終レポート作成・提出
学びの手立て	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト：片口安史 「改訂新・心理診断法」 金子書房		
	①履修の心構え 欠席するとその後の理解に支障をきたすため、皆出席かつ遅刻厳禁。		
評価	発表、討論への参加、提出されたレポート等から総合的に評価する。		
	割合 平常点(出席状況等) 30％ 課題レポート50％ 最終レポート20％ 上記の評価方法については、講義初日に詳細に説明する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「投映法特論」受講後に「臨床心理査定演習Ⅱ」を受講し、検査結果の解釈や所見の書き方について習得していく。今後は「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」「臨床心理事例検討実習」などを受講する中で、事例を通してさらに理解できることが望ましい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

学生

の目指す専門領域について見識を深め、将来個人や社会の福祉問題に関する適切な研究活動ができるように指導します。

[

／演習]

科目基本情報	科目名 人間福祉特殊研究ⅠD	期 別	曜日・時限	単 位
		通年	金 7	4
	担当者 岩田 直子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年	講義終了後、もしくはメールで受付ます。	

学びの準備	ねらい 修士論文作成のベースとなる先行文献や論文を読み進めます。 また、研究活動の基本を学びます。	メッセージ 研究活動の楽しさを共有しながら共に学びを進めていきましょう
	到達目標 研究テーマに関連する先行文献、先行論文を分析できるようになる。 論文作成に必要な基本的な知識を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回：オリエンテーション 第2回～第6回：文献、論文をもとにディスカッション 第7回：論文作成の基本を学ぶ 第8回～第14回：文献、論文をもとにディスカッション 第15回～第16回：先行研究の分析 第17回～第25回：文献、論文をもとにディスカッション 第26回：研究テーマの発表 第27回～29回：研究方法に関する文献を読む 第30回～第31回：研究目的、方法について再確認
	テキスト・参考文献・資料など 講義時に随時紹介します。
	学びの手立て 研究のベースを形成する1年になるよう丁寧に学んでいきましょう。先行研究をたくさん読みましょう。
	評価 講義時の発表50％、前期と後期に1回ずつ提示するレポート50％

学びの継続	次のステージ・関連科目 修士論文の作成につなげる。
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	人間福祉特殊研究ⅡB	通年	木 7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	2 年	比嘉研究室；5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 修士論文を仕上げる重要な1年になる。まずは中間発表に向けて取り組み、その後も一つひとつのステップ(調査等の実施・結果の分析・考察)を確実に踏みながら、完成に向けて歩を進める。	メッセージ 受講生の研究活動をサポートしますので、意欲的に取り組んで下さい。大学から発信されるポータル等の連絡をこまめに確認して下さい。
	到達目標 修士論文を完成させることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 【第3セメスター】 1. オリエンテーション；研究の進捗状況報告等 2. 研究テーマ・研究仮説・研究方法の確認 3. 研究計画の確認と実際の研究(調査含む)の進め方 4. 論文構成の吟味 5. 中間発表の内容確認・発表指導 【第4セメスター】 1. オリエンテーション；論文完成に向けてスケジュールの確認 2. 研究の目的と論文のオリジナリティとの整合性の確認 3. 論文のまとめ 4. 最終口頭試問に向けて準備 5. 論文の完成
	テキスト・参考文献・資料など 特になし。適宜授業時に提示する。
	学びの手立て 論文作成においては、多くの先行研究を客観的・批判的に精読する必要がある。社会福祉分野に限らず学際的に(近隣分野・領域)文献にはあたることを薦める。また、県内・外の学会や研究会・学習会には積極的に参加しましょう。
	評価 修士論文の内容(70%)は当然のことながら、各ゼミにおける個別発表や中間報告・口頭試問含むプレゼンテーション(15%)、研究に取り組む姿勢やプロセス(15%)も考慮し、総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会福祉の専門家として、地域社会で生じる様々な問題の解決に向けて実践・研究に参画することができる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	人間福祉特論	前期	水 7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小柳 正弘	1 年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業は、テキストの批判的読解と受講者との議論により、人間と福祉とのかかわりについて、倫理学の観点も参考に、「自己決定」を素材に、原理的な考察をおこなうものである。	メッセージ 「ともに学ぶ」ことへの主体的な参加を望む。
	到達目標 倫理学の観点も参考に、人間や福祉における「自己決定」のありかたについて、関連する諸問題や先行研究に関する多面的な検討をふまえたうえで、自説の展開ができる。 (次のステップとしては、自身に固有の問題意識にもとづく課題において、どのような社会福祉の原理がみいだされるかについて、関連する諸問題や先行研究に関する多面的な検討をふまえたうえで、自説の展開ができる、といったことが考えられる。)	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 各回のテーマ [] 内は時間外学習の内容 ①批判的コメントの手法―石橋論文を素材に (1) [レジュメの作成] ②批判的コメントの手法―石橋論文を素材に (2) [レジュメの作成] ③受講者の入学前事前課題をめぐって [事前課題の整理] ④自己決定の現状と課題 (1) [レジュメの作成] ⑤『実践・倫理学』第1章 [レジュメの作成] ⑥自己決定の現状と課題 (2) [レジュメの作成] ⑦『実践・倫理学』第7章 [レジュメの作成] ⑧自己決定の系譜と展開 (1) [レジュメの作成] ⑨受講者の研究計画をめぐって [研究計画を整理] ⑩『実践・倫理学』第8章 [レジュメの作成] ⑪自己決定の系譜と展開 (2) [レジュメの作成] ⑫自己決定の系譜と展開 (3) [レジュメの作成] ⑬受講者のテーマに係る先行研究の購読 [レジュメの作成] ⑭社会的自我論と自己決定 (1) [レジュメの作成] ⑮社会的自我論と自己決定 (2) [レジュメの作成]
	テキスト・参考文献・資料など テキスト： 小柳正弘『自己決定の倫理と「私-たち」の自由』ナカニシヤ出版 小柳正弘「自己決定の系譜と展開」[『自己決定論のゆくえ』（九州大学出版会）所収] 児玉聡『実践・倫理学』勁草書房 ＊テキストの取扱については第1回の授業の際に説明する。 ＊このほかに資料を配付し、授業の展開や受講者の問題関心に応じて参考文献は適宜指示・紹介する。
	学びの手立て 大学院での学びは、主体性と独自性をもって自立した研究活動ができる見識・技法・能力を身につけることを目指すものであり、そのためには、たとえば以下のような姿勢が肝要である。 ①理論的課題であれ実践的課題であれ、まずは課題の学術的・社会的な背景を踏まえて問題を整理するなど、解決のためにどのような検討を行わなければならないかを、自身でしっかり考える。 ②他者との対話を通して、さまざまな問題を可能な限り多面的に(ときに根底的に)検討する。
	評価 ①授業中の発表／報告・議論／質疑／コメントを内容と形式(積極性も含む)から評価60％、②時間外に作成したレジュメ・レポート等(特定質問、コメント、レジュメの修正版も含む)など提出物を形式と内容から評価40％ ＊遅刻・早退は原則として二回で欠席一回と見なす。

学びの継続	次のステージ・関連科目 障害と支援・ケア特論Ⅰまたは 障害と支援・ケア特論Ⅱ、人間福祉特殊研究Ⅰ
-------	--

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	福祉分野に関する理論と支援の展開	前期	木 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮里 新之介	1 年	研究室 13-616研究室 E-mail : miyazato.s+okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 福祉分野における心理社会的な問題や現行の制度、法規についての知識を習得し、事例問題を通して更に理解を深めることをねらいとする。	メッセージ 福祉分野は領域が幅広いので、授業だけの学習のみでなく自主的に調べるなどして学びを深めて欲しい。
	到達目標 ①福祉分野における問題と心理社会的な課題について理解する ②福祉分野で働く心理職にとって必要な知識や技術について理解する	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	資料精読
	2	児童の福祉に関連する制度と法規①（児童相談所、児童福祉施設、里親制度 等）	リフレクションシートの作成
	3	児童の福祉に関連する制度と法規②（児童福祉法、児童虐待防止法、民法 等）	リフレクションシートの作成
	4	障害児・者の福祉に関する制度と法規①（障害児・者が利用可能な支援）	リフレクションシートの作成
	5	障害児・者の福祉に関する制度と法規②（障害者基本法、障害者総合支援法 等）	リフレクションシートの作成
	6	高齢者の福祉に関する制度と法規①（高齢者の生活施設、地域包括支援センター 等）	リフレクションシートの作成
	7	高齢者の福祉に関する制度と法規②（老人基本法、老人保健法、後期高齢者医療保険制度 等）	リフレクションシートの作成
	8	被害者支援①（DV被害者支援、女性相談センター）	リフレクションシートの作成
	9	被害者支援②（犯罪被害者支援、災害支援）	リフレクションシートの作成
	10	福祉分野における他職種連携・他機関連携	リフレクションシートの作成
	11	福祉分野の実践①（事例：発達障害、子どもの虐待）	リフレクションシートの作成
	12	福祉分野の実践②（事例：社会的養護、里親支援）	リフレクションシートの作成
	13	福祉分野の実践③（事例：子育て支援、母子生活支援施設）	リフレクションシートの作成
	14	福祉分野の実践④（事例：精神障害、高齢者の介護）	リフレクションシートの作成
	15	福祉分野の実践⑤（事例：司法と再犯防止）	リフレクションシートの作成
	16	予備日	
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する		
	学びの手立て ディスカッションにおいては積極的に考えを述べ、他者の意見も聞きながら新たな視点を得ようとする態度を望む。		
	評価 ①ディスカッションへの取り組み 50% ②リフレクションシート・課題の提出 50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 心理実践実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	保健医療福祉特論Ⅰ	前期	木 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	1 年	担当教員宛てにメールしてください。 m.higuchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 保健医療福祉特論Ⅰでは、①保健・医療・介護・福祉政策の歴史や現状を理解し、問題点や課題を探求する。②保健・医療・介護・福祉制度、サービスの提供構造を理解する。保健医療福祉特論Ⅱでは、①地域包括ケア時代における連携・協働の現状を理解し、問題点や今後の課題を探求する。②保健医療分野におけるソーシャルワークの現状を理解し、問題点や今後の課題を探求する。	メッセージ 保健医療政策に関する資料、保健医療分野におけるソーシャルワークに関する文献や先行研究論文等の精読を中心に講義を展開する。実践上の問いや漠然としたテーマが、ライフワークに繋がるよう、現場で実践しながら研究に取り組む専門職との交流を活用する等して、研究の着想を育てる。
	到達目標 保健医療福祉特論Ⅰでは、①我が国における保健・医療・介護・福祉政策の概要を説明することができる。②我が国の保健・医療・介護・福祉制度、サービスの提供構造について説明することができる。保健医療福祉特論Ⅱでは、①地域包括ケア時代における連携・協働の課題について説明することができる。②保健医療分野におけるソーシャルワークの課題について説明することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション（ポートフォリオの作成）	ポートフォリオを作成する
	2	我が国の厚生労働行政について	「地域共生社会」について
	3	厚生労働行政に関連する論文抄読	「地域包括ケアシステム」について
	4	我が国の医療の現状について	「地域医療構想」について
	5	医療の現状に関連する論文抄読	「医療計画」について
	6	我が国の福祉と介護の現状について	「介護報酬」について
	7	福祉と介護の現状に関連する論文抄読	「自立支援医療制度」について
	8	我が国の保険と年金の現状について	「年金改革法」について
	9	保険と年金の現状に関連する論文抄読	「診療報酬」について
	10	医療法について	「医療法」について
	11	地域医療連携について	厚生労働省資料を読む
	12	在宅医療・介護連携推進の方向性について	厚生労働省資料を読む
	13	沖縄県入退院支援連携デザイン事業について	事業内容を調べる
	14	沖縄県がん対策推進計画について	県資料を読む
	15	ハンセン病問題について	厚生労働省資料を読む
	16	前期の振り返り（ポートフォリオの作成）	ポートフォリオを作成する
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない、その都度資料を配布する。 「厚生労働白書」「国民衛生の動向」「国民の福祉と介護の動向」「保険と年金の動向」等の厚生労働統計関係の雑誌、保健医療分野におけるソーシャルワークに関連した図書等		
	学びの手立て ①履修の心構え：基本的な就学期間で目標が達成できるよう、重要性和緊急性からやるべきことの優先順位を考え、タイムマネジメントを行うこと。 ②学びを深めるために：他領域における実践や研究成果についても関心を持つこと。日頃から多職種との協働に取り組むこと。また実践事例を「社会福祉（ウェルビーイング）」の立場からソーシャルワークの価値・知識・理論・介入（方法・技術）の視点から説明することや、現場での課題をミクロ・メゾ・マクロの視点で省察することを心がけること。		
	評価 課題提出60%、討論への参加20%、授業参加度20%として、総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：人間福祉特論、保健医療福祉特論Ⅰ・Ⅱ、人間福祉特殊研究Ⅰ・Ⅱ 次のステージ：保健・医療・介護・福祉政策、保健医療分野におけるソーシャルワークについて学び、自身の研究テーマや研究デザインに繋げる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	保健医療分野に関する理論と支援の展開	後期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	1 年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 保健医療分野に必要な心理検査、心理療法、医学知識、法的知識、チーム医療における他の専門職との連携について学ぶ	メッセージ 【実務経験】保健医療分野は公認心理師が最も活躍する領域である。そのため基礎となる心理的支援の知識だけでなく医学、法律の知識も幅広く身につけること。これまでの臨床心理士としての経験を踏まえて実学としての講義を展開する。、
	到達目標 保健医療分野で働く公認心理師にとって必要な知識、技術について理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	医療・保健の機関	配布資料の復習
	2	関連する法規と制度：医療法、地域保健法、精神保健福祉法、医療保健制度	配布資料の復習
	3	医療倫理、医療記録、患者の権利、患者－医療者関係	配布資料の復習
	4	医療における専門職、チーム医療	配布資料の復習
	5	精神科における心理支援（1）統合失調症、気分障害、アルコール依存症	配布資料の復習
	6	精神科における心理支援（2）アセスメント	配布資料の復習
	7	精神科における心理支援（3）個人心理療法	配布資料の復習
	8	精神科における心理支援（4）グループ心理療法	配布資料の復習
	9	一般総合病院における心理支援（1）慢性痛	配布資料の復習
	10	一般総合病院における心理支援（2）糖尿病	配布資料の復習
	11	一般総合病院における心理支援（3）がん	配布資料の復習
	12	一般総合病院における心理支援（4）筋ジストロフィー	配布資料の復習
	13	一般総合病院における心理支援（5）エイズ	配布資料の復習
	14	高次脳機能障害に対するアプローチ	配布資料の復習
	15	認知症に対するアプローチ	配布資料の復習
	16	レポート	
	テキスト・参考文献・資料など 病気のひとのこころ 医療の中での心理学 日本心理学会監修 誠信書房		
	学びの手立て 講義で紹介される文献、関連のある文献に目を通すこと。		
	評価 授業におけるコメントシート・・・20％、最終レポート・・・80％によって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 心理実践実習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
-------	--

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	臨床心理実習（心理実践実習Ⅱ）	通年	火 6・7	6
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦・平山 篤史	2 年	上田まで y.ueda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本実習では、心理実践実習Ⅰの学習成果をふまえ、学内外での心理臨床活動の実際に触れながら、地域に根ざした心理臨床活動を展開するために必要な実践的知識や技法の習得を目指す。	メッセージ 【実務経験】これまでの臨床心理士としての経験に基づき、実際の臨床現場で何が求められるのか、何をやらなければならないかを明確にしながら実習に参加できるようにしていきます。毎週の学外実習と実習報告には、かなりの時間とエネルギーを必要とします。体調管理も行いながら一年間取り組むこと。
	到達目標 臨床心理学的な人間理解と援助法を身につける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、実習計画報告、事前課題報告	事前課題作成
	2	心理実践実習Ⅰで修得した面接技法などについて確認し、学外での実習に向けた演習を行う。	学外での実習、報告書作成
	3	心理実践実習Ⅰで修得した面接技法などについて確認し、学外での実習に向けた演習を行う。	学外での実習、報告書作成
	4	心理実践実習Ⅰで修得した面接技法などについて確認し、学外での実習に向けた演習を行う。	学外での実習、報告書作成
	5	学外実習での実習成果をふまえ、実際の臨床場面での問題や課題について事例をもとに検討する。	学外での実習、報告書作成
	6	学外実習での実習成果をふまえ、実際の臨床場面での問題や課題について事例をもとに検討する。	学外での実習、報告書作成
	7	学外実習での実習成果をふまえ、実際の臨床場面での問題や課題について事例をもとに検討する。	学外での実習、報告書作成
	8	学外実習での実習成果をふまえ、実際の臨床場面での問題や課題について事例をもとに検討する。	学外での実習、報告書作成
	9	学外実習での実習成果をふまえ、実際の臨床場面での問題や課題について事例をもとに検討する。	学外での実習、報告書作成
	10	学外実習での実習成果をふまえ、実際の臨床場面での問題や課題について事例をもとに検討する。	学外での実習、報告書作成
	11	学外実習での実習成果をふまえ、実際の臨床場面での問題や課題について事例をもとに検討する。	学外での実習、報告書作成
	12	学外実習での実習成果をふまえ、実際の臨床場面での問題や課題について事例をもとに検討する。	学外での実習、報告書作成
	13	学外実習での実習成果をふまえ、実際の臨床場面での問題や課題について事例をもとに検討する。	学外での実習、報告書作成
	14	学外実習での実習成果をふまえ、実際の臨床場面での問題や課題について事例をもとに検討する。	学外での実習、報告書作成
	15	学外実習での実習成果をふまえ、実際の臨床場面での問題や課題について事例をもとに検討する。	学外での実習、報告書作成
	16	前期の実習を振り返り、後期の実習課題を検討する。事前課題の報告	事前課題の作成
	17	前期の実習を振り返り、後期の実習課題を検討する。	学外での実習、報告書作成
	18	実習施設担当者に「心理臨床の現場と公認心理師の役割と活動」に関する講義	学外での実習、報告書作成
	19	実習施設担当者に「心理臨床の現場と公認心理師の役割と活動」に関する講義	学外での実習、報告書作成
	20	個別の事例について検討を行い問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。	学外での実習、報告書作成
	21	個別の事例について検討を行い問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。	学外での実習、報告書作成
	22	個別の事例について検討を行い問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。	学外での実習、報告書作成
	23	個別の事例について検討を行い問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。	学外での実習、報告書作成
	24	個別の事例について検討を行い問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。	学外での実習、報告書作成
	25	個別の事例について検討を行い問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。	学外での実習、報告書作成
	26	個別の事例について検討を行い問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。	学外での実習、報告書作成
	27	個別の事例について検討を行い問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。	学外での実習、報告書作成
	28	個別の事例について検討を行い問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。	学外での実習、報告書作成
	29	個別の事例について検討を行い問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。	学外での実習、報告書作成
	30	個別の事例について検討を行い問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。	学外での実習、報告書作成
	31		

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。
	学びの手立て 実習先では積極的にクライアント・利用者に関わること。また自らの関わりを言語化し記述することが心理師としての技量を高めることに繋がる。単なる記録としてではなく、技量のトレーニングであることを意識しながら報告書をまとめること。
	評価 毎回の実習記録・・・60%、学外実習担当者の評価・・・40%をもとに評価する。
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 心理実践実習Ⅳ、臨床心理面接特論

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	臨床心理学特殊研究ⅠA	通年	金 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	1 年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 修士論文を書くことで、臨床における科学的見方を身につけ、将来の科学者－実践家モデルとなる下地を作ること をねらいとする。2年間で修士論文を書き上げるためには、1年時は準備期間となるが、この1年間で、臨床心理学における研究領域と研究方法、テーマ設定、仮説構築と検証方法、データ収集の方法、研究における倫理的配慮、統計的技法の選択、文献検索の方法、科学論文の書き方を	メッセージ 【実務経験】これまでの臨床心理士としての経験をもとに、現場においても研究者としての心理士の力を発揮できるように指導していく。
	到達目標 修士論文執筆のためのデザインを完成する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 前期ではまず、各自の卒業論文の概要と関心のある領域・テーマについて発表・ディスカッションを行いながら、関心のある研究領域の拡大を行う。 次にその中から各自のテーマに関連する論文を読み、論点を整理し発表する。これを繰り返しながら各自の研究テーマと研究目的を絞り込んでいく。 後期において、研究目的を達成するための方法論の検討を行い、研究計画を立てる。
	テキスト・参考文献・資料など 臨床心理学の研究の技法 下山晴彦 編 （福村出版）
	学びの手立て より多くの先行研究を探し読み込むこと。
	評価 毎回の発表の内容・・・80％、取り組みの積極性、討議での積極性・・・20％によって評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 臨床心理学特殊研究ⅡA
-------	---------------------------------------

※ポリシーとの関連性 臨床心理学的研究・調査を可能にするための科目である。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	臨床心理学特殊研究Ⅱ A	通年	金 7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	2 年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 修士論文を完成させることを通して、データ収集法、データ収集における倫理的配慮、データ整理、統計的手法、論文執筆における科学論文の構成、引用の仕方等をマスターする。修士論文完成後の発表会の前には、リハーサルを行い、プレゼンテーションの仕方、学会発表の仕方を身につけることをねらいとする。	メッセージ 【実務経験】これまでの臨床心理士としての経験から、現場で介入を行うと同時に、データを取り研究するという科学者 - 実践家モデルとしての心理士になれるように指導していく。
	到達目標 修士論文を完成し、修士論文最終発表にて発表する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	修士論文進捗状況（先行研究） 発表	発表準備・資料作成
	2	〃	発表準備・資料作成
	3	〃	発表準備・資料作成
	4	〃	発表準備・資料作成
	5	修士論文進捗状況（方法・対象者） 発表	発表準備・資料作成
	6	〃	発表準備・資料作成
	7	〃	予備実験開始
	8	〃	予備実験開始
	9	修士論文進捗状況（データ収集） 発表	データ収集
	10	〃	データ収集
	11	〃	データ収集
	12	〃	データ収集
	13	修士論文進捗状況（データ分析） 発表	データ分析
	14	〃	データ分析
	15	〃	データ分析
	16	〃	データ分析
	17	〃	データ分析
	18	修士論文進捗状況（考察） 発表	論文作成
	19	〃	論文作成
	20	〃	論文作成
	21	〃	論文作成
	22	〃	論文作成
	23	〃	論文作成
	24	〃	論文作成
	25	〃	論文作成
	26	修士論文完成版 発表	発表資料準備
	27	〃	発表資料準備
	28	〃	発表資料準備
	29	修士論文発表会 予演	発表パワーポイント作成
	30	〃	発表パワーポイント作成
	31	〃	発表パワーポイント作成

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など APA論文作成マニュアル アメリカ心理学会著 江藤裕之他訳 医学書院
	学びの手立て データ収集、データ分析に時間を十分に時間を掛けられるようにスケジュール管理を行うこと。
	評価 提出された論文の内容から評価する。
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 修士論文最終発表、関連学会での発表、論文投稿

※ポリシーとの関連性		カリキュラム・ポリシー「臨床心理査定・臨床面接・臨床心理学的地域援助・臨床心理学的研究等の技能を高める」基礎科目に相当。			[	／一般講義]		
科目基本情報	科目名	期 別		曜 日 ・ 時 限		単 位		
	臨床心理学特論Ⅰ	前期		金 5		2		
	担当者	対象年次		授業に関する問い合わせ				
	井村 弘子	1 年		メール等の連絡方法については、初回授業で説明する。				
学びの準備	ねらい		メッセージ					
	心理職（臨床心理士・公認心理師）を目指す学生の土台となる講義であり、臨床心理学の定義や歴史、日本・諸外国における心理職の資格制度、臨床心理学に基づく人間理解・援助の方法、さらに、今後の展望や倫理問題などについて学ぶ。		人間福祉専攻臨床心理学領域で学ぶための最も基礎となる科目であることを踏まえ、柔軟な発想を持ちつつ、堅実に学んでほしい。					
学びの準備	到達目標							
	臨床心理学の定義・歴史・資格制度・倫理に関する専門的知識を得る。 臨床心理学に基づく人間理解・支援の方法に関する基礎的知識を修得する。							
学びの実践	学びのヒント							
	授業計画							
	回	テーマ				時間外学習の内容		
	1	臨床心理学の定義				テキストを読んで予習をする		
	2	臨床心理学の独自性				テキストを読んで予習をする		
	3	臨床心理学の歴史と成立Ⅰ				テキストを読んで予習をする		
	4	臨床心理学の歴史と成立Ⅱ				課題レポート①作成		
	5	心理職の養成				各自の体験をまとめておく		
	6	心理職の課題				各自の課題をまとめておく		
	7	臨床心理学における人間理解の方法Ⅰ				テキストを読んで予習をする		
	8	臨床心理学における人間理解の方法Ⅱ				課題レポート②作成		
	9	臨床心理学に基づく援助の方法Ⅰ				テキストを読んで予習をする		
	10	臨床心理学に基づく援助の方法Ⅱ				課題レポート③作成		
	11	臨床心理学に基づく実践活動				テキストを読んで予習をする		
	12	臨床心理学に基づく研究活動				テキストを読んで予習をする		
	13	臨床心理学に基づく専門活動				テキストを読んで予習をする		
	14	心理職の職業倫理				事前課題をまとめておく		
	15	臨床心理学の課題と展望				各自で課題についてまとめておく		
	16							
	学びの実践	テキスト・参考文献・資料など						
		下山晴彦（著）「これからの臨床心理学」東京大学出版会 大塚義孝（編）臨床心理学全書1「臨床心理学原論」 誠信書房 下山晴彦・丹野義彦（編）講座臨床心理学1「臨床心理学とは何か」東京大学出版会						
	学びの実践	学びの手立て						
常に問題意識を持ち、自ら学ぶ姿勢を確立すること。 教員・他の院生とのディスカッションに積極的に参加すること。								
学びの実践	評価							
	討論への参加態度や発言内容（40%），提出されたレポート①，②，③（60%）を総合的に評価する。							
学びの継続	次のステージ・関連科目							
	専門的知識・技能を高めてゆくために、引き続き「臨床心理学特論Ⅱ」を履修すること。							

科目基本情報	科目名 臨床心理学特論Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
		後期	水 5	2
	担当者 平山 篤史	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年	研究室 13－211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理臨床面接の基本的考え方、態度、理論を習得する。学内外の臨床実習に対応できる基礎力を養う。	メッセージ 心理臨床面接は「技法」だけを覚えても支援の役に立ちません。技法にクライアントを当てはめるのではなく、クライアントの役立つように技法を使えるようにともに学んでいきましょう。学内外の実習で使える心理臨床面接を取り上げて学びます。
	到達目標 心理臨床面接の実践の基礎が理解できる。 学内外の実習で心理臨床面接ができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	心理療法とは	資料精読・振り返りシート
	2	心理療法に共通する治療要因	資料精読・振り返りシート
	3	プレイセラピー①理論	資料精読・振り返りシート
	4	プレイセラピー②理論	資料精読・振り返りシート
	5	プレイセラピー③理論	資料精読・振り返りシート
	6	プレイセラピー①方法	資料精読・振り返りシート
	7	プレイセラピー②方法	資料精読・振り返りシート
	8	プレイセラピーの体験と振り返り①	振り返りシート
	9	プレイセラピーの体験と振り返り②	振り返りシート
	10	プレイセラピーの体験と振り返り③	振り返りシート
	11	プレイセラピーの体験と振り返り④	振り返りシート
	12	事例から学ぶ①	資料精読・振り返りシート
	13	事例から学ぶ②	資料精読・振り返りシート
	14	事例から学ぶ③	資料精読・振り返りシート
	15	まとめ	最終レポート
	16	予備日	
	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する		
	学びの手立て 臨床心理領域で設定されているそれぞれの科目を学内外の実習と結び付け、常に実践を意識して学んでほしい。		
	評価 ①ディスカッションへの取り組み方 50% ②リフレクションシート・課題の提出状況および内容 50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 臨床心理学領域の領域必修科目、選択科目、学内外の実習につながる。
-------	---

学 び の	ねらい 学内外での臨床心理実習を行う為に必要となる、心理臨床の倫理や、臨床心理面接、臨床心理査定などの基礎的知識と基礎的技能の習得を目的とする。ロールプレイング、ディスカッションを通して体験的に学習する。	メッセージ ディスカッションやロールプレイングを通して、心理臨床実践の基礎を身につけてほしい。臨床実践の力は、話を聞くだけでは身につかないため、主体的かつ積極的にディスカッションや実習、課題に取り組むこと。
-------------	--	---

学びのヒント <u>授業計画</u>		
回	テーマ	時間外学習の内容
1	前期オリエンテーション	調べ学習・レジメ作成・発表準備
2	心理臨床実践の基本事項①倫理 1	調べ学習・レジメ作成・発表準備

1 / 2

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する 適宜紹介する
	学びの手立て 心理臨床実践の学びのためには、自分の認知・行動・感情を振り返り、言語化して表現するトレーニングが必要とされる。その際、乗り越えなければならない自分自身の課題も見つかると思うが、それに向き合い続けなければならない。心理的負担を伴う作業ではあるが、スーパーバイザーや教員を使い、支えを得ながら、取り組んでほしい。 いくらまじめに取り組んでいても、受け身的な態度では実践力は身につかない。積極的に発言し、行動し、多くの経験を積んでほしい。
	評価 ①ディスカッション・ロールプレイング実習への取り組み方（40%） ②リフレクションシート・課題の提出状況（30%） ③見極めロールプレイング（30%） を総合的に判断し評価する。
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 「臨床心理実習」や附属心理相談室のケース陪席、ケース担当、学外のボランティア活動などで学んだことを実践し、常に振り返りを行う。

※ポリシーとの関連性 臨床心理査定の技能を高めるための講義・実習である。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	1 年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 公認心理師に必要とされる、クライアントの人格・行動とその規定要因に関する情報を系統的に収集して、クライアントに対する介入方針を決定するため作業仮説を組み立てることができる能力を高める。	メッセージ 【実務経験】これまでの臨床心理士としての経験をもとに、臨床現場で必要となるアセスメント法を使いこなせるようにします。またアセスメントに基づき報告書を書き、フィードバックも行えるようにします。
	到達目標 アセスメントにもとづく具体的な介入・援助方針を導き出せるようにする。クライアントや他職種にも分かるような結果報告書が書けるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	心理アセスメントに有用な情報及びその把握方法	配布資料の復習
	2	関与しながらの観察について	配布資料の復習
	3	人格検査概論	配布資料の復習
	4	神経心理学的検査概論	配布資料の復習
	5	認知機能概論	配布資料の復習
	6	WAIS-Ⅲ①	配布資料の復習
	7	WAIS-Ⅲ②	データ整理
	8	WMS- R①	結果の整理
	9	WMS-R②	データ整理
	10	注意機能検査	結果の整理
	11	遂行機能検査	配布資料の復習
	12	検査結果の包括的解釈	配布資料の復習
	13	心理検査結果報告書の作成	配布資料の復習
	14	心理アセスメントにもとづく介入方針の検討①	配布資料の復習
	15	心理アセスメントにもとづく介入方針の検討②	配布資料の復習
	16	レポート	
学びの手立て	テキスト・参考文献・資料など 神経心理学的検査集成 レザック, M. D. 鹿島晴雄監修 創造出版 心理アセスメントレポートの書き方 リヒテンバーガー他 日本文化科学社		
	評価		
	平常点（講義への積極的参加、コメント・質問等）・・・10%、最終レポート・・・90%によって評価する		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：保健・医療分野に関する理論と支援の展開、臨床心理面接特論Ⅱ 次のステージ：臨床心理実習
-------	--

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	臨床心理査定演習Ⅱ	前期	月 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲田 梨沙	1 年	ptt861アットマークokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理査定法のひとつである心理検査について主に取り上げる。さらにその中でも投射法検査について取り上げていく。適切な実施方法、結果の整理、解釈の基本的な考え方について実習をふまえて体験的に学習した上で、検査実施、検査報告書の書き方、テストバッテリーの組み方、心理的援助に結びつく総合所見の書き方などを実践力を身につけることを目的とする。	メッセージ 演習の一環として事前に必ず被験者体験をし、データを手元に用意すること。投射法検査について、各検査の成り立ち、目的、構成、手順、測定方法、結果整理の方法などについて各自整理しておくこと。
	到達目標 投映法検査を臨床場面で実際に活用するには、さらなる研修が必要であるが、その基礎を学ぶ機会になればと考 える。この科目を履修することによってロールシャッハ・テストをはじめとする主な投映法の結果整理と所見作成ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	臨床心理査定法概論（面接法・観察法）	臨床心理査定法の復習
	2	臨床心理査定法概論（検査法・主に投射法について）	投射法の復習
	3	臨床心理査定の実際①事例A	投射法の復習
	4	臨床心理査定の実際②事例B	投射法の復習
	5	臨床心理査定の実際③事例C	投射法の復習
	6	投映法検査実施方法・各検査器材の取り扱い方について	投映法の復習（検査器具について）
	7	検査実習①	実習方法を確認
	8	検査実習②	実習方法を確認
	9	ロールシャッハ・テストスコアリング・結果整理の方法	実習結果を整理
	10	その他投射法検査の結果整理の方法	実習結果を整理
	11	所見と心理的援助	実習結果を整理
	12	事例発表①	検査結果・所見をまとめる
	13	事例発表②	検査結果・所見をまとめる
	14	事例発表③	検査結果・所見をまとめる
	15	検査結果報告書の書き方	検査結果報告書作成
	16	最終レポート作成・提出（到達度の確認）	検査結果報告書作成
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：片口安史 「改訂新・心理診断法」金子書房 小野和雄 「ロールシャッハ・テスト その実際・解釈・臨床例」川島書店		
	学びの手立て 履修の心構え 欠席するとその後の理解に支障をきたすため、皆出席かつ遅刻厳禁。		
	評価 発表、討論への参加、提出されたレポート等から総合的に評価する。 割合 平常点(出席状況等) 30％ 事例発表50％ 最終レポート20％ 上記の評価方法については、講義初日に詳細に説明する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「投射法特論」を事前に習得している。 次のステージ 「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」「臨床心理事例検討実習」などを受講する中で、事例を通してさらに理解できることが望ましい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	臨床心理実習 A	通年	水 7	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史、上田 幸彦、宮里 新之介、宮良 尚子	1 年	上田まで y.ueda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 一つ一つの事例を様々な視点から検討することを通して、心理的問題を抱える人の環境、歴史、特性に応じた援助が展開できるようにする。	メッセージ 【実務軽減】 担当者は全員、公認心理師・臨床心理士としての経験を持つ者である。実際の現場で行われるのと同じようなケースカンファレンスを通して心理師としての目を養ってほしい。
	到達目標 来談者の個別性を理解し、その人に対する適切な援助を柔軟に展開できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	事例報告資料の作成
	2	事例検討①	事例報告資料の作成
	3	事例検討②	事例報告資料の作成
	4	事例検討③	事例報告資料の作成
	5	事例検討④	事例報告資料の作成
	6	事例検討⑤	事例報告資料の作成
	7	事例検討⑥	事例報告資料の作成
	8	事例検討⑦	事例報告資料の作成
	9	事例検討⑧	事例報告資料の作成
	10	事例検討⑨	事例報告資料の作成
	11	事例検討⑩	事例報告資料の作成
	12	事例検討⑪	事例報告資料の作成
	13	事例検討⑫	事例報告資料の作成
	14	事例検討⑬	事例報告資料の作成
	15	事例検討⑭	事例報告資料の作成
	16	事例検討⑮	事例報告資料の作成
	17	事例検討⑯	事例報告資料の作成
	18	事例検討⑰	事例報告資料の作成
	19	事例検討⑱	事例報告資料の作成
	20	事例検討⑲	事例報告資料の作成
	21	事例検討⑳	事例報告資料の作成
	22	事例検討㉑	事例報告資料の作成
	23	事例検討㉒	事例報告資料の作成
	24	事例検討㉓	事例報告資料の作成
	25	事例検討㉔	事例報告資料の作成
	26	事例検討㉕	事例報告資料の作成
	27	事例検討㉖	事例報告資料の作成
	28	事例検討㉗	事例報告資料の作成
	29	事例検討㉘	事例報告資料の作成
	30	事例検討㉙	事例報告資料の作成
	31		

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。
	学びの手立て 他者の報告についても積極的に質問、コメントすること。自分のケースは、報告することによってさらに理解が深まる、他者のケースは、報告を聞き想像することによって、ケースを理解する力が高められる。
	評価 毎回のカンファレンスにおける積極性（質問、コメント）・・・４０％　自分のケース報告・・・６０％　によって評価する。
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 心理実践実習Ⅳ　臨床心理面接特論

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	後期	木 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮里 新之介	1 年	研究室13－616 E-mail：miyazato.s+okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理臨床面接の基本的考え方、態度、理論を習得する。学内外の臨床実習に対応できる基礎力を養う。	メッセージ 代表的な心理支援の理論と方法を学び、学内外での実習において心理臨床面接の基礎的な部分を実践できるようになることを目指す。よって、受け身的でない積極的な受講態度を望む。
	到達目標 心理面接における契約や事例のアセスメントの仕方、面接過程（導入期、展開期、終結期）の技法や留意点などの基本的知識と技能を、論文・書籍の輪読やロールプレイングなどの体験を通して習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（授業の進め方、心理面接における基本概念）	資料精読
	2	臨床心理面接における倫理について（人権の尊重、秘密保持、面接契約）	リフレクションシートの作成
	3	心理面接の展開（導入期：インテーク面接）	リフレクションシートの作成
	4	心理面接の展開（展開期：心理面接で起こること）	リフレクションシートの作成
	5	心理面接の展開（終結期：終結のサイン、まとめの作業）	リフレクションシートの作成
	6	力動論に基づく心理療法の理論と方法	リフレクションシートの作成
	7	行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法	リフレクションシートの作成
	8	人間性心理学に基づく心理療法の理論と方法	リフレクションシートの作成
	9	集団心理療法の理論と技法（心理劇の理論）	リフレクションシートの作成
	10	集団心理療法の理論と技法（心理劇の実践）	リフレクションシートの作成
	11	子どもとの心理面接（遊戯療法と箱庭療法の理論）	リフレクションシートの作成
	12	子どもとの心理面接（箱庭療法の実践）	リフレクションシートの作成
	13	適切な支援のための心理療法の適用や選択	リフレクションシートの作成
	14	ケース・カンファレンスの実践と留意点	リフレクションシートの作成
	15	総括	前期の授業内容の復習
	16	予備日	
	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する		
	学びの手立て 心理臨床の専門的活動の一つである心理臨床面接の基盤となる科目であるため、理解が十分でないことに関しては自発的に質問し、それらを解消することを心がけてほしい。また、自身の思考や認知、行動や感情を言語化する能力は心理臨床面接において非常に重要な能力であると考えため、授業におけるディスカッションはそのトレーニングとして積極的に参加することを望む。		
	評価 ①実習・ディスカッションへの取り組み方 50% ②リフレクションシート・課題の提出 50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 臨床心理学領域の領域必修科目、選択科目、学内外の実習につながる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	臨床心理面接特論Ⅱ	後期	木 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	1 年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 近年世界的に最も用いられることが多い認知行動療法に関わる面接技法を中心に学習する。また精神分析的アプローチ、クライアント中心療法などの各派との違いと各派に共通するものを探り、最近の流れである心理療法の統合について理解していく。	メッセージ 【実務経験】これまでの臨床心理士としての経験を踏まえ、現場で実際に使える、役に立つ面接技能を習得することを目指す。毎回、積極的に質問・コメントをすること。
	到達目標 将来出会うであろう様々なクライアントに対して、最も有効なアプローチ法を見出せるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料の復習
	2	認知行動療法の基礎としての学習・問題行動・不適応行動	配布資料の復習
	3	行動療法の主な技法：系統的脱感作、曝露反応妨害法、応用行動分析	配布資料の復習
	4	認知行動療法基礎理論、抑鬱に対する認知行動療法①	配布資料の復習
	5	抑鬱に対する認知行動療法②	配布資料の復習
	6	〃 ③	配布資料の復習
	7	〃 ④	配布資料の復習
	8	〃 ⑤	配布資料の復習
	9	他のアプローチとの比較：来談者中心療法	配布資料の復習
	10	〃 ：精神力動的アプローチ	配布資料の復習
	11	〃 ：システムズ・アプローチ	配布資料の復習
	12	〃 ：折衷的アプローチ	配布資料の復習
	13	〃 ：動機づけ面接法	配布資料の復習
	14	慢性疾患、視覚障害者、高次脳機能障害者に対するアプローチ	配布資料の復習
	15	心理療法の統合：多理論統合モデル	配布資料の復習
	16	レポート	
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献： 「心理療法の諸システム 多理論統合的分析」 プロチャスカ著 津田彰他監訳 金子書房 2010 「リハビリテーションにおける認知行動療法的アプローチ」上田幸彦著 風間書房 2011 「高次脳機能障害のための認知リハビリテーション」 ソールバーク・マティアー著 尾関誠・上田幸彦監訳 協同医書出版社 2012		
	学びの手立て 自分の臨床経験と照らし合わせながら講義を聴くこと。また紹介した文献には必ず目を通すこと。		
	評価 毎回の講義でのディスカッションへの参加状況・・・50％、最終レポート・・・50％によって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 心理実践実習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
-------	---